

2024年度 生産・経営部会活動報告

部会長 石渕 大和

生産・経営部会委員紹介

	県名	役職	氏名	法人名
1	熊本県	部会長・JPPA理事	石渕 大和	熊本興畜（株）
2	愛知県	担当副会長	山本 孝徳	（有）アクティブビッグ
3	岩手県	委員・JPPA理事	橋本 晋栄	（株）アーク
4	秋田県	委員	細川 拓也	（有）細川農興
5	千葉県	委員	北田 好克	（株）北守
6	長野県	委員	小川 哲生	タローファーム（株）
7	三重県	委員	窪田 陽平	（有）クボタビッグファーム

2024年度の部会開催

▶ 第1回 生産・経営部会

2024年6月5日 JPPA代々木事務所＋WEB

▶ 第2回 生産・経営部会

2024年11月6日 JPPA代々木事務所＋WEB

▶ 実態調査打ち合わせ

2025年2月5日 WEB開催

▶ 第3回 生産・経営部会

2025年3月4日 JPPA代々木事務所＋WEB

2024年度は養豚農業実態調査の調査事項検討会も兼ねた部会を3回、打ち合わせを1回実施した。

活動①：養豚農業実態調査

- 毎年9月に実施。翌年3月末に調査報告書を有効回答農家と関係団体に配布、HP公開。
- 2024年度は設問に母豚の不断給餌、一般排水基準値への対応、農場HACCP・JGAPの取得状況等を追加。
- 調査票の回答方法は郵送（紙）、WEB、エクセルフォームの3種類で実施。
- 2024年度から希望者に調査票のメール配信を開始。締切り前にリマインドメール送付も実施しており、現在130名ほどの登録がある。
- 2024年度から報告書を詳細版と簡易ダイジェスト版に分けて作成。また、詳細版報告書では経年比較を掲載することで業界の傾向が一目で分かる内容に一新した。

報告書（詳細・簡易ダイジェスト）

[illegible]

活動②：優良事例調査

- ・2020年度以降、疾病等の影響により委員（生産者）が農場を訪問して調査をすることが困難となり、新たな調査方法について検討を重ねてきた。
- ・2024年度から（一社）日本養豚開業獣医師協会（以下、JASV）協力のもと、JASVベンチマーキングを用いた新たな優良事例調査を開始。
- ・ベンチマーキング成績だけでなく、**管理獣医師との共に農場の衛生や疾病、経営改善の取り組みを実施した特徴ある農場**についてJASV会員獣医師から推薦を募った。
- ・エントリーシートを基にJASVベンチマーキング委員会・役員会で諮っていただいたうえで本会検討会で審査、2024年度は有限会社飯田養豚場（青森県）を優秀農場として決定した。

活動②：優良事例調査

- 2024年12月23日 青森県三沢市にて有限会社飯田養豚場 飯田大樹専務、コンサルの株式会社バリューファーム・コンサルティングの呉克昌先生に聞き取り調査を実施し報告書を作成。
- 飯田養豚場様はJPPA優良経営農場規定により、本総会にて日本養豚協会会長賞を受賞。

🌟🐷おめでとうございます🐷🌟



呉先生と飯田専務



優良事例報告書も
本会HPからご覧
いただけます。

活動③：暫定排水基準

- 硝酸性窒素等の暫定排水基準値が2025年6月末で期限を迎えることを受け、生産・経営部会では環境省からのヒアリング、データ提供等に積極的に協力し、養豚農家の現状について説明を重ねた。
- 2025年5月26日環境省は暫定排水基準値の改正について公布、養豚は現行の硝酸性窒素等400mg/Lの適用期限を3年3か月（2028年9月末まで）延長することが決定された。（2025年7月1日施行予定）
- 今後も生産・経営部会ではセミナーや通信・アプリ等を通じて暫定排水基準値や污水处理技術等について会員への周知・普及を実施する。

活動③：暫定排水基準（参考）

簡易水質チェックとアプリを用いた浄化施設の管理

硝酸性窒素等濃度を推定し、運転管理に役立てることができます



- ・ 上：簡易水質チェックマニュアル
- ・ 下：硝酸性窒素等濃度推定アプリ

活動④：その他部会取り組み

- 他団体からの部会に関連する調査・事業等協力依頼に適切な委員を推薦した。
- ・ **公益社団法人 中央畜産会**
令和6年度堆肥舎等長寿命化推進事業（畜産環境対策の推進支援）
- ・ **一般財団法人 畜産環境整備機構**
 - ①凝集促進剤を含む固形分の堆肥化技術開発普及事業
 - ②高濃度畜産臭気脱臭技術開発普及事業
 - ③汚水浄化施設最適管理支援技術実証普及事業
- ・ **農林水産省**
「家畜排せつ物の利用の促進を図るための基本方針」に係る意見交換会
 - BCP（事業継続計画）及び国内精液におけるBCPについて検討。
 - IOT技術に関する意見交換会を実施。

2025年度の活動について

- 部会と併せて養豚農業実態調査検討会を開催。委員と共に調査票内容の検討及び回答率アップに取り組む。
- 優良事例調査も引き続き調査方法としてJASVベンチマーキング用いてエントリーシートの充実とより良い調査と報告書内容の普及が出来るよう検討を進める。
- 今後も他団体から部会に関連する調査等協力依頼が来た際には、積極的に協力する。
- BCP、IOT技術に関しては実態調査の設問に設定し、養豚農家における現状調査を行う。
- 国内におけるBCPについて検討を進める。